

表II-3 本県におけるオオタカの生息状況とその保護対策の基本方向

	現状と問題点	課題	基本方向
生物の多様性	<ul style="list-style-type: none"> 豊かな生態系の指標種 生息分布域の偏向 餌生物の都市鳥依存 生態及び生息環境条件の把握が不充分 	<ul style="list-style-type: none"> 遺伝子、種、生態系の各段階における多様性の確保 希少種以外の野生生物の保護 生息地の復元と創出 調査研究の充実 	生物多様性の保全と持続可能な利用に向けた施策の充実
個体の減少	<ul style="list-style-type: none"> 密猟問題 繁殖妨害 	<ul style="list-style-type: none"> 物理的：営巣木バリケード、営巣地包囲柵の設置 社会的：一般への意識啓発、取り締まり体制の強化 	個体レベルの保護方策の強化 <ul style="list-style-type: none"> 捕獲等の規制 営巣活動への配慮
	<ul style="list-style-type: none"> 傷病鳥及び落鳥の取り扱い 	<ul style="list-style-type: none"> 治療とりハビリのための施設の設置 人工繁殖技術の確立 調査研究の充実 協力体制の確立 	保護増殖の実施
	<ul style="list-style-type: none"> 環境汚染による生物濃縮 	<ul style="list-style-type: none"> 化学物質の影響把握 	有害化学物質の規制
生息環境負荷の増大	<ul style="list-style-type: none"> 営巣樹林地及び狩り場の減少 不安定な個体群の維持 	<ul style="list-style-type: none"> 生息地保護に関する法制度の活用 保全重要エリアの公有地化 生息地の復元と創出 土地利用及び各種開発行為との調整(土地利用計画) 	生息地の保全強化 開発行為に際しての配慮方策の推進
	<ul style="list-style-type: none"> 開発行為に伴う生息不適地の増加 環境汚染による生物濃縮 	<ul style="list-style-type: none"> 生態学的補償制度(ミティゲーション)の検討 化学物質の影響把握 生息環境の改善 自然林の維持、人工林を含めた森林の適正管理 	開発行為等に際しての配慮方策の推進 有害化学物質の規制 多様な生息環境の確保
	<ul style="list-style-type: none"> 農地の減少と生態的質の低下 林地の減少と放棄人工林の荒廃 土木工事による繁殖活動阻害 	<ul style="list-style-type: none"> 環境共生型農林業の実施 直接補償制度(デカップリング)の検討 持続的な土地利用計画の検討 工期や工法面の工事実施上の配慮の検討 自然林の維持、人工林を含めた森林の適正管理 	農林業等の実施上の配慮方策の検討